

自生ササユリの特性と保護

ササユリの里復元!

1. はじめに

山野に自生するササユリは淡い桃色の花と香をもち、「朝露に濡れた清楚な姿」に愛好を求める人々も多く、保護されつつ切り花も行われているが、近年、人里近くには少なくなった。そのため自生地では育成特性・環境について調査し、還元技術（バイテク技術による球根の増殖や養成）を開発することにより、自然環境と調和した植生の維持と山採り技術の安定化を検討している。

自生地での育成概況・育成環境や還元技術の現状について、その成果を紹介する。

2. 自生ササユリの育成概況

県下の自生地10市町村・15カ所について3ヶ年の調査によると、開花期は、紀南海岸部で5月6半旬、紀北の高地では7月1半旬であった。着蕾株の草丈は50~100cmで、葉長15~16cm、葉幅は紀南で広く紀北で細い。花は1茎当たり1.0~2.4輪、太い茎には5~7輪も着く。花は6枚の花被弁で直径11~12cm、長さ13cm程度、花色は自生地内でも桃白~淡い紫桃色まで個体差が大きい。

3. 自生地の生育環境

生育場所は山腹や山際の北から東の傾斜地に多く、こぼれ日が当たり、草本類で覆われて照度は叢生上部の1/3程度である。紀北や紀南の山間部では杉などの伐採で日照条件が回復して幼株が密生しているのが観察される。

土壌は落葉や下草に覆われて適度の水分を保ち、れきが多い。pHは4.1~5.4の酸性であり、ECは低い。土壌中のりん酸、石灰、苦土含量は一般農地の半量以下、加里は同程度で、腐植は少ない。

表1 自生地土壌の分析値

自生地	pH	EC (mS)	リン酸 (mg)	CaO	MgO	K ₂ O	腐植 (%)
紀南	4.70	0.09	7.9	94	28	26	2.5
紀中	4.48	0.14	5.0	71	15	23	2.0
紀北	4.62	0.12	5.4	68	15	25	2.6

4. 球根の増殖法と還元

自然条件では増殖率が低く、自生地球根の減少を補うためにはバイテク技術を利用した人工増殖が必要である。実用化された増殖法によると、1りん片当たり約4mmの子球が約20個が得られる。培地のショ糖を6%に高め、30~60日冷蔵すれば、肥大と出葉率が向上する。また、MS培地にぶどう糖を3%添加した液体振盪培養法によっても肥大が促進される。通気膜付き培養容器を使うと、徒長せず順化でき移植後も順調に生育した。

表2 糖濃度等培養条件と球根の肥大

通気膜 ぶどう糖	有 球根重	有 葉数	無 球根重	無 葉数
3%	0.06 g	3.3	0.70 g	3.8 枚
6	0.57	3.1	0.45	2.6
9	0.15	0.7	0.14	0.5

自生地に培養球根を秋植して生育状況を観察したところ、翌年には70%以上が出葉し、1g以上の球根は20%が抽苔して、3年後に数%が蕾を付けた。培養球根の養成には山土と田土にピートモスを混合した用土が移植後の葉枯も少なく生育、葉色ともよい。

表3 球根養成用土と生育

土とピートモスの混合比	葉数	葉長
山土:田土:ピートモス(1:1:1)	3.8枚	6.3cm
山土:ピートモス(2:1)	3.3	5.8

5. 今後の問題点と方向

圃場栽培に馴染まないと考えられるため、無秩序な山採りや球根の乱獲を慎み、積極的な保護対策を進めると共に、優良個体を増殖し、自生地へ還元することにより、再びササユリの里を復元し、山採りの安定化を図る事も夢では無いと考える。(園芸部 林 純一)